株主メモ

■**事業年度**　毎年4月1日～翌年3月31日

■**基準日**
定時株主総会　3月31日
剰余金の配当　3月31日
中間配当を行う場合　9月30日
そのほか必要がある場合は、あらかじめ公告いたします。

■**定時株主総会**　毎年6月下旬

■**単元株式数**　1,000株

■**株主名簿管理人**　東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社

■**お問い合わせ先**

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先	お取引の証券会社になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
電話お問い合わせ先		0120-288-324（フリーダイヤル）
お取扱店		みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
ご注意	未払配当金の支払（※）、支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。	単元未満の買取・買増以外の株式売買はできません。 電子化前に名義書換を失念してお手元に他人名義の株券がある場合は至急ご連絡ください。

※未払配当金のみ、みずほ銀行全国本支店でもお取扱いたします。

■**公告方法**　電子公告（http://www.se-corp.com/ir/koukoku/index.html）
ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

○**配当金計算書について**
租税特別措置法の改正により、株主様に支払配当金額や源泉徴収税額等を記載した支払通知書を通知することとなっております。つきましては、支払通知書の法定要件を満たした配当金計算書を同封しておりますので、平成24年の確定申告の添付書類としてご使用ください。
なお、配当金を株式数比例配分方式によりお受け取りの場合、源泉徴収額の計算は証券会社等にて行われますので、平成24年の確定申告の添付書類としてご使用いただける支払通知書につきましては、お取引の証券会社等へご確認ください。

SEC 株式会社 エスイー
http://www.se-corp.com
VEGETABLE OIL INK

株主通信

第30期
2010.4.1～2011.3.31

【華明大橋】韓国
釜山にある韓国最大河川である江洛東を跨ぐ、全長1,039mの斜張橋。当社の斜材ケーブルFUT-H型が採用され、架設支援業務も請け負いました。この華明大橋の開通は2012年5月予定となっております。

SEC　証券コード：3423

変化と新しい価値の創造

顧客に満足される
新しい機能の創造

社会、自然環境との調和

社員の個性尊重
－意欲と能力の発揮による各人の豊かさの実現－

Making Changes
Creation of New Values
for the Next Stage

株主の皆様へ

代表取締役社長 森元峯夫

この度の東日本大震災により被災された方々及びそのご家族の皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

平素は格別のご支援、ご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。
当期における我が国経済は年度初めに緩やかな回復基調にあったものの、欧米の景気減速や急激な円高に加え、年度末には東日本大震災の発生により急速に減退いたしました。当社グループでは、公共事業費削減など市場環境が非常に厳しいなか、中長期的な収益安定に向けて経営基盤の強化に取り組みました。
次期見通しとしては、震災の影響が強く懸念されますが、当社の技術力やノウハウを生かして一日も早い復興に貢献できますよう補修・補強事業をさらに推進すると共に、新たな収益の柱となる新規事業にも取り組んでまいります。
今後とも皆様の温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

決算ハイライト

2011年3月期決算のポイント

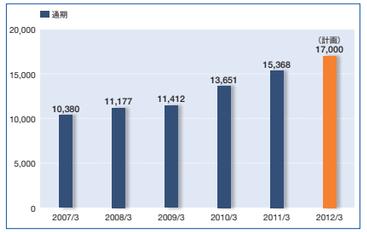
①売上高は前期比12.6%増加
主力事業である「建設用資機材の製造・販売事業」では主要製品である『アンカー』や『落橋防止装置』の販売に苦戦しましたが、前年度にM&Aした㈱キョウエイの連結業績により、前年同期に比べ大幅な拡大となりました。

②工場製品の販売が伸びず利益は減少
売上高の増加に伴う利益増があったものの、比較的利益率の高い工場製品の販売が伸びず、韓国㈱コリアエスイーの業績も気象の影響を受けるなどして利益減少の要因となりました。一方、販売費及び一般管理費は、対売上高比率で前期比0.4ポイント改善することができました。

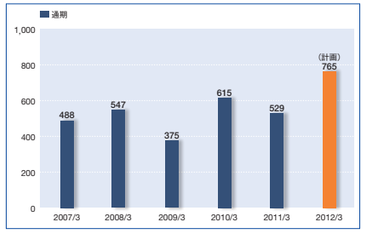
次期の見通し

東日本大震災の影響が強く懸念され厳しい市場環境が続くと思われるなか、当社グループでは昨年設立した「リペア・テクノ事業部」を中心に従来にも増して補修・補強市場への進出を図ってまいります。また、㈱アンジェロセック、エスイーバイオマステクノ㈱では、新規事業として新たに「水処理関連事業」にも積極的に取り組んでまいります。
以上のことから、通期連結業績見通しについては売上高170億円（前期比10.6%増）、営業利益7億65百万円（前期比44.5%増）、経常利益8億円（前期比46.9%増）、当期純利益4億71百万円（前期比45.3%増）を見込んでおります。
なお、東日本大震災に伴う当社グループに与える影響につきまして、現時点での想定しうるものは考慮しておりますが、今後の進展次第では業績の見通しを見直すことも検討しております。

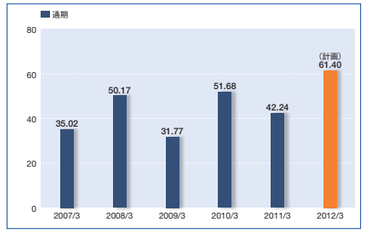
連結売上高（単位：百万円）



連結営業利益（単位：百万円）



連結修正1株当たり当期純利益（単位：円）



復興支援に取り組みながら、グループの総合力を駆使して新たな社会基盤を創造します。

Q.東日本大震災による被害や業績への影響についてお聞かせください。

人的被害は特になく、地震発生後の迅速な対応により従業員ならびにその家族の無事を確認いたしました。物的被害といたしましては、仙台にある東北支店のほか、子会社の（株）キョウエイにおいて設備の一部に被害が発生しましたが、当社グループ全体としては拠点・設備の損害、損失額ともごくわずかであり、現時点で業務及び操業に支障をきたすようなことはありません。

Q.社会インフラ整備を担う会社として、どのような復興支援をお考えでしょうか。

地すべりを防止する当社の『SEEE永久グラウンドアンカー工法』はネジ式で、優れた耐震性を備えており、また、当社が提供する『落橋防止装置』の高い効果は阪神淡路大震災などでも証明されてきました。復興支援の以前に、当社のこうした技術・製品を通じて震災による被害の拡大防止にも貢献できたのではないかと思っています。
さらに今回の震災では、最も被害が大きかった地域の一つである宮城県南三陸町に、グループ会社のエスイーバイオマステクノ（株）が製造したソーラー型浄水装置システム『オアシスウォーター』を無償提供しました。太陽光発電を利用した川の水の浄水化によって、厳しい避難所生活を余儀なくされている約600名の方々に、十分な飲料水や生活用水を供給していました。先日、私も現地を訪ねましたが、実に多くの方々が喜ばれていました。
今後の復興支援策として大きな取り組みとなるのが、当社グループがそれぞれの技術やノウハウを発揮しながら、多角的な角度からつくり上げていく『エコビレッジ』です。グループ会社である（株）アンジェロセックが中心となり、今回、地震や大津波で被災した東北地方・太平洋沿岸部の各地に、300～1,000人ほどの新しいかたちのコミュニティを創造していきたいと考えています。まずは、津波被害の恐れのない高台に平地を造成し、当社のグラウンドアンカー技術などを投入して土砂崩れや地震に強い土地を整備します。そこで、前述のエスイーバイオマステクノ（株）によるソーラー型浄水装置システムの設置や、食品残渣を飼料化できるリサイクルプラントの建設を進め、地域の組合で運営して利益を上げられる仕組みをつくり、新たな雇用も創出する。さらに、太陽光や風力など再生可能エネルギーも活用する持続可能な循環型コミュニティの実現を目指します。このエコビレッジ構想は、単なる復興支援策という枠を越えて、日本全体の社会やコミュニティのあり方を根底から変革しうる極めて社会的意義の大きなプロジェクトとなるはずです。

Q.当期の業績の振り返りと今後の取り組みについてお聞かせください。

前期に実施した（株）キョウエイとエスイー朝日（株）のM&Aによる業容拡大により、当期は売上を拡大することができました。しかし、近年の公共事業削減や、アフリカ諸国の政変によるプロジェクトの中断、バイオマス事業関連の設備投資抑制などが影響して当期純利益は約18%低下しています。ただし、中には今期中に再開されるプロジェクトもあり、時期がずれ込んだだけという案件も少なくありません。
今期は、昨年8月に新設した「リペア・テクノ事業部」が本格稼働する体制が整い、さらなる市場開拓が期待できるほか、新形態の公共事業「PPP」による2件の橋梁プロジェクトを国土交通省に提案しており、もしこれが実現すれば日本初の本格的な「PPP」による橋梁プロジェクトになるのではと期待しています。また、東南アジアやアフリカといった新たな都市開発における上下水道整備など、水関連事業にもさらに注力していくと共に、拡大する建設需要に応えて、アンカー製品などを生産する工場をベトナムの現地企業と共同建設するなど海外へも積極展開していく考えです。
こうした事業戦略や以前から取り組んでいる徹底した原価管理を通じて、現在5%に満たない経常利益率を、3年後をめどに7%、6～7年後をめどに10%台にまで上げ、研究開発に再投資して、さらに技術力を高め、そしてより大きな収益を上げていくという拡大再生産的なサイクルをグループ全体で定着させていくことが当面の目標です。

Q.最後に、株主の皆様へメッセージをお願いします。

当初から私は、「人のためになることを事業にしたい」という想いから仕事に取り組んできましたが、今回の東日本大震災でその想いをさらに強くしました。私どもは社会インフラの安全に大きな貢献が果たせる会社であり、株主総会などでは皆様から大変ありがたい応援のお言葉をいただくことも少なくありません。そんな株主様の声に報い、そして、社会の期待にしっかりとお応えできるよう尽力してまいりますので、今後も変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

PPP：Public Private Partnership
（官公庁と民間の提携事業方式）

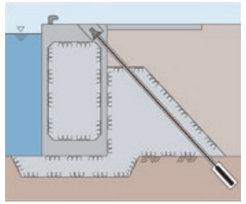
Topics

1 港湾・漁港でのアンカー利用による耐震補強が高評価

施工事例：神戸港ポートアイランド

当社の耐震性・維持管理に優れたナット定着工法の『SEEE永久グラウンドアンカー工法』が、神戸港ポートアイランド（第2期）地区の耐震補強工法として採用されました。本工事は岸壁本体（ケーソン）の上部より斜めにグラウンドアンカーを打ち込み、定着させて緊張作業をすることによって岸壁本体の耐震補強を図っています。今回の受注は本格的な港湾事業実績として当社にとって大きな蓄積であり、今後とも製品の開発・改良および用途拡大を進めてまいります。

また、当社の『岸壁・護岸耐震補強アンカー工法』は㈶沿岸技術研究センターより評価証を取得しており、地震に対する有効性が認められております。幹線道路が被災した場合における海上輸送の重要性なども見直されており、緊急物資を輸送する大型船舶が接岸可能な新たな耐震強化壁の築造及び既存岸壁の耐震強化整備も非常に重要視されています。



2 新たな収益の柱となる事業の開拓（補修補強事業、水処理関連事業）

㈱エスイーでは、2010年8月に既設橋梁の補修・補強事業の専門部署として「リペア・テクノ事業部」を新設し、製品供給のみならず架設現場での技術指導を行うなかで蓄積してきたノウハウを生かして成長市場への積極的な営業活動を展開しました。㈱アンジェロセックでは2011年4月1日より水環境技術部を新しく設置し、仏語圏アフリカ諸国を中心にさらに多彩な事業提案が可能になり、エスイーバイオマステクノ㈱では浄水化・淡水化の分野で国内外に営業活動範囲を広げるなど、多面的に水処理関連事業への研究開発と積極的な市場参入を推進しております。

3 ソーラー型浄水装置で被災地に飲み水を

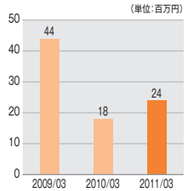
東日本大震災で多大な被害を受けた宮城県南三陸町にある歌津中学校には震災直後約600人が避難しており、ライフライン復旧のめどが立たないなか、当社グループのエスイーバイオマステクノ㈱ではソーラー型浄水装置システム『オアシスウォーター』を現地に無償で設置。川の水を浄水化し飲料水や生活用水を提供することで生活面の支援を行いました。

営業概況

その他事業

売 上 高　24百万円

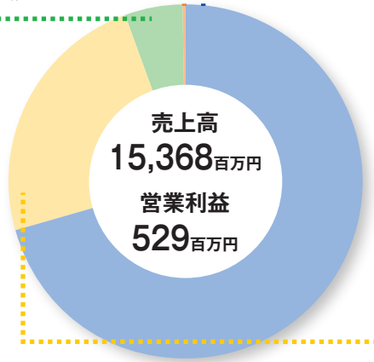
報告セグメントに含まれない事業セグメントを集約しており「バイオマス事業」を含んでおります。



建設用資機材の製造・販売事業

売 上 高　108億72百万円

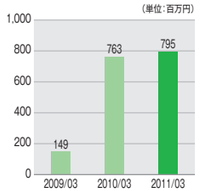
主力製品である『落橋防止装置』や『アンカー』は苦戦しましたが、『アンカー』のうち港湾岸壁の耐震補強等に用いる『非法面アンカー』の分野が同44.1%の増となりました。→Topics 1



建設コンサルタント事業

売 上 高　7億95百万円

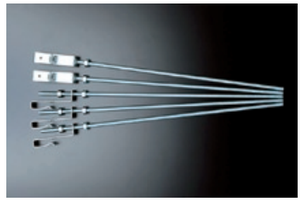
JICA・外務省案件を中心に海外展開を徐々に規模拡大しておりますが、北アフリカ諸国等での政変によりプロジェクトが延期されるなどの影響もありました。

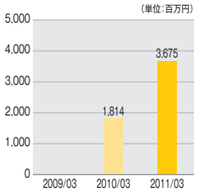


建築用資材の製造・販売事業

2010年1月から連結対象となった㈱キョウエイの業績寄与により、売上高は前期比に比べて大幅な拡大となりました。

売 上 高　36億75百万円





※エスイー朝日㈱が2010年3月期第1四半期、㈱キョウエイが同年第4四半期から連結子会社となっております。

連結財務諸表

連結貸借対照表（単位：千円）

科　目	当期末 2011.3.31現在	前期末 2010.3.31現在
資産の部		
流動資産	12,406,000	10,882,302
現金及び預金	3,516,098	2,675,351
受取手形及び売掛金	7,027,108	6,529,037
商品及び製品	285,892	305,505
仕掛品	307,113	157,734
原材料及び貯蔵品	1,006,465	942,864
繰延税金資産	145,444	148,210
その他	189,174	176,099
貸倒引当金	△71,298	△52,500
固定資産	5,457,876	5,729,215
有形固定資産	3,946,809	4,078,663
建物及び構築物	1,245,507	1,302,796
機械装置及び運搬具	390,452	473,850
工具器具及び備品	78,721	98,269
土地	2,200,210	2,200,210
建設仮勘定	—	3,536
リース資産	31,917	—
無形固定資産	233,772	248,653
のれん	176,943	198,747
その他	56,828	49,905
投資その他の資産	1,277,294	1,401,899
投資有価証券	626,429	609,164
繰延税金資産	387,995	404,699
その他	298,178	408,652
貸倒引当金	△35,309	△20,617
資産合計	17,863,876	16,611,518

（注）財務諸表の記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

科　目	当期末 2011.3.31現在	前期末 2010.3.31現在
負債の部		
流動負債	7,405,965	6,521,301
支払手形及び買掛金	4,871,576	3,886,921
短期借入金	357,322	388,749
1年以内返済予定長期借入金	1,161,743	1,057,248
1年以内償還予定社債	244,000	190,000
未払法人税等	196,847	240,828
賞与引当金	78,629	77,493
その他	495,846	680,060
固定負債	4,238,707	4,007,463
社債	721,000	645,000
長期借入金	2,632,956	2,581,983
リース債務	33,513	—
退職給付引当金	394,111	387,960
役員退職慰労引当金	411,964	383,820
資産除去債務	42,462	—
その他	2,700	8,700
負債合計	11,644,673	10,528,765
純資産の部		
株主資本	6,368,246	6,198,642
資本金	1,046,100	1,046,100
資本剰余金	995,600	995,600
利益剰余金	4,573,779	4,403,023
自己株式	△247,233	△246,080
その他の包括利益累計額	△155,431	△119,979
その他有価証券評価差額金	26,058	19,835
為替換算調整勘定	△181,490	△139,815
少数株主持分	6,389	4,090
純資産合計	6,219,203	6,082,752
負債及び純資産合計	17,863,876	16,611,518

連結損益計算書（要約）（単位：千円）

科　目	当期 2010.4.1～2011.3.31	前期 2009.4.1～2010.3.31
売上高	15,368,970	13,651,729
売上原価	11,205,708	9,743,901
売上総利益	4,163,262	3,907,828
販売費及び一般管理費	3,633,710	3,292,687
営業利益	529,551	615,140
営業外収益	148,937	192,149
営業外費用	133,743	116,780
経常利益	544,745	690,509
特別利益	45,022	7,381
特別損失	23,481	40,034
税金等調整前当期純利益	566,287	657,856
法人税、住民税及び事業税	216,600	255,745
法人税等調整額	23,042	3,857
法人税等合計	239,642	259,603
少数株主損益調整前当期純利益	326,644	—
少数株主利益	2,299	1,392
当期純利益	324,345	396,861

（注）財務諸表の記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書（要約）（単位：千円）

科　目	当期 2010.4.1～2011.3.31	前期 2009.4.1～2010.3.31
Ⅰ 営業活動による キャッシュ・フロー	1,009,109	310,988
Ⅱ 投資活動による キャッシュ・フロー	△377,292	△604,968
Ⅲ 財務活動による キャッシュ・フロー	91,125	1,304,582
Ⅳ 現金及び現金同等物に係る 換算差額	△7,671	△1,235
Ⅴ 現金及び現金同等物の増減額	715,271	1,009,366
Ⅵ 現金及び現金同等物の期首残高	2,491,550	1,482,183
Ⅶ 現金及び現金同等物の期末残高	3,206,822	2,491,550

（注）財務諸表の記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

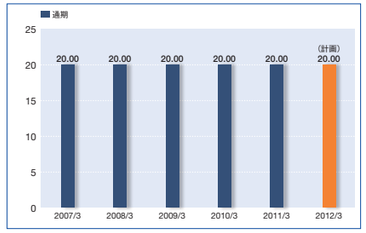
ポイント①

当連結会計年度より、「資産除去債務に関する会計基準」等の適用により営業利益、経常利益はそれぞれ3,482千円、税金等調整前当期純利益は20,226千円減少しております。

ポイント②

特別利益には、山口市より交付された企業用地取得補助金36,007千円が含まれます。

連結修正1株当たり配当金（単位：円）



（注）2007年３月期の修正１株当たり配当額には、創業40周年記念配当５円を含んでおります。

会社情報（2011年3月31日現在）

商　　号	株式会社エスイー
所　在　地	〒163-1343 東京都新宿区西新宿六丁目5番1号（新宿アイランドタワー）
創　　業	昭和42年８月
設　　立	昭和56年12月
資　本　金	10億4,610万円
従業員数	単体203名、連結368名
グループ事業内容	1.建設用資機材の製造・販売事業 ・環境・防災分野 ・橋梁構造分野 ・建設エンジニアリング分野 ・橋梁等の補修・補強分野 2.建築用資材の製造・販売事業 3.建設コンサルタント事業 4.バイオマス事業
関係会社	株式会社アンジェロセック（連結） エスイーバイオマステクノ株式会社（連結） エスイー朝日株式会社（連結） 株式会社キョウエイ（連結） 株式会社コリアエスイー（持分法適用） ティアイエス株式会社（持分法非適用） 有限会社日越建設コンサルタント（VJEC）（非連結）

役　員（2011年6月29日現在）

代表取締役社長	森　元　峯　夫
代表取締役副社長	大　津　哲　夫
常務取締役	岡　本　哲　也
常務取締役	塚　田　正　春
取締役	本　間　誠　治
取締役	今　田　顕
取締役	髙　橋　茂　雄
取締役	戸　澤　憲　行
監査役	鈴　木　章　二
監査役	寺　石　雅　英
監査役	菅　澤　喜　男

ホームページのご案内

詳細なIR情報や会社概要等については、当社ホームページをご覧ください。

http://www.se-corp.com/index.html

株式情報（2011年3月31日現在）

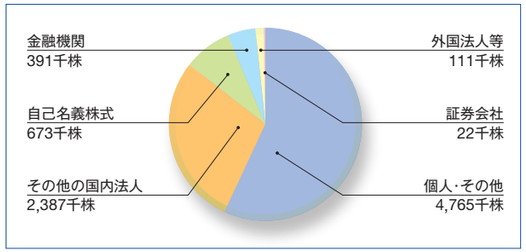
株式の状況

1.発行可能株式総数　27,400,000株
2.発行済株式の総数　8,350,000株（うち自己株式673,019株）
3.株主数　1,095名
4.大株主の状況（上位10名）

株主名	持株数（株）	持株比率（%）
有限会社エヌセック	2,275,000	29.6
森元峯夫	337,500	4.3
前田昌則	333,000	4.3
大津哲夫	275,000	3.5
竹島征男	266,250	3.4
髙橋謙雄	260,000	3.3
岡本哲也	242,500	3.1
鈴木昭好	166,000	2.1
株式会社横浜銀行	150,000	1.9
森元伸一	120,000	1.5
合　計	4,425,250	57.6

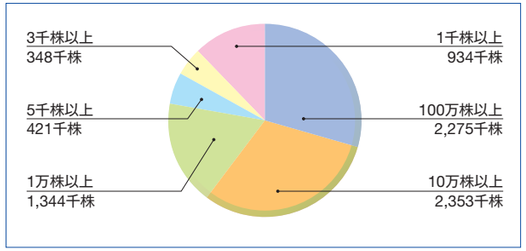
（注）持株比率は、自己株式（673,019株）を控除して、計算しております。

●所有者別株式分布



※「その他の国内法人」には証券保管振替機構名義株式（1名2,000株）が含まれております。

●所有株式別株式分布



※1「所有株式別株式分布」には「自己株式」を含めておりません。
※2「所有株式別株式分布」には証券保管振替機構名義株式（1名2,000株）を含めております。

株主優待品のご案内

毎年3月31日現在の株主名簿に記録された1単元（1,000株）以上の当社株式を保有されている株主様を対象に、災害時に備える防災用品や非常食をはじめ一律3,000円相当の品目リストより株主様が選ばれた一品目を贈呈いたします。
なお、今回は東日本大震災被災者への救援や被災地の復旧のための日本赤十字社を通じた「義援金（3,000円）の寄付」もご用意いたしました。
詳細は、同封の「株主様ご優待のご案内」をご覧ください。